

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100337		
法人名	医療法人社団 純心会		
事業所名	グループホーム語り愛		
所在地	高松市円座町字道下288-1		
自己評価作成日	令和元年 9月1日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「信頼される医療 想いとやさしさの伝わるケア 私たちはそれを目指します」および事業所理念「ふれあい 語りあい 支え合い 笑顔あふれる豊かな暮らし 私たちはそれを支援します」を念頭に、利用者様お一人お一人に寄り添ったケアを行っています。家事や趣味等、ご利用者様の可能な活動を援助することにより、生きがいや役割を持った生活を送られ、また、買い物やドライブ、地域の催し等への外出や、季節の行事等も楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

手入れの行き届いた季節折々の花木が植えられた事業所の広い庭園は、安心して自由に散歩でき、また、整理整頓された共用室等は安全面にも配慮されており、利用者をはじめ家族等も季節を感じながら安心してゆったりと過ごせる環境と思われる。職員は、利用者を人生の先輩として個性や今までの生活歴、できることを尊重しながらともに支え合い、家庭的な雰囲気をお大切にした支援に努めている。特に安全で自然の素材を活かした食事の提供に対する職員の熱意が伝わってくる。同法人の管理職をはじめ、職員間で相互に意見を言い合え、コミュニケーションの良い職場環境であると感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で決めた事業所理念を朝礼で唱和することで、理念を念頭においた業務が行えている。	法人の理念を踏まえ、事業所設立時に職員間で決めた理念を、朝礼時に唱和して共有している。職員は利用者の話を傾聴し、やさしく思いやりを持って接するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流会を開いたり、地域の催しへ利用者様と一緒に参加している。	運営推進会議や家族等の紹介により、ボランティアや秋祭りの獅子舞等の訪問を受けるとともに、事業所の夏祭りやクリスマス会等の行事やカラオケルームに地域の方に参加を頂くなど地域との交流に努めている。中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議等、地域の方が来られた際にホームでの取り組みや日々のケアの中での気づきなどを共有している。また、見学に来られた方や、電話でお問い合わせがあった方等に、出来得限りの情報を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事・活動のご報告、事故や災害対策等について話し合いを行い、アドバイスも頂きながらサービス向上に活かしている。	民生委員や地区コミュニティ協議会長、利用者、家族代表者等を委員とし、2か月に1回開催している。利用者の状況や行事報告を行うとともに情報収集や意見交換を行い、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に出席して頂いたり、介護保険課の方にも適切な運営のために助言や指導を頂いている。	地域包括支援センターや介護保険課等の関係機関と必要に応じて、随時、例えば身寄りのない方の成年後見制度等について相談を行っている。	他の事業所も身寄りのない利用者の財産管理や通院支援等の問題や課題等と思われる事項について、率先して市町村との連携を密に図り、問題解決につながる橋渡しを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。また、内部研修でも身体拘束の弊害等について学んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会を3か月に1回開催している。月1回の研修会の中に身体拘束に関する項目を組み入れ、具体的な事例を取り入れた研修を行い、職員間で知識や情報を共有して身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け、虐待に繋がる事のないようケアへの取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で倫理規定や人権擁護について理解を共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談時から契約に至るまで、本人や家族に見学をして頂くと共に、パンフレットや重要事項説明書等を用いて話し合いをし、質疑に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートの実施などにより意見を出しやすいようにしている。また、面会に来られた時や電話等、お話をする機会があればお気づきの点がないか伺うようにしている。	玄関に意見箱を設置、運営推進会議や家族との面会、電話連絡時に意見や要望を聞く機会を設けている。提案された意見は職員間で検討を行い、ケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼やミーティング時に職員全体の意見を聞き、サービスの質の向上のためになることは取り入れている。また、法人からは定期的に視察にくる事により現状の把握、職員からの意見を共有、反映できるようにしている。	職員は毎朝の朝礼やミーティング等の日常業務の中、また、3か月に1回の同法人の管理職(理事長・副理事長・事務長等)の事業所訪問時にも、気兼ねなく自由に意見や要望を表出できる環境である。提案された事項は反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や実績の把握に努め、賞与や昇進等に反映させている。また、法人からの視察時に現状把握や相談などが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また、法人で介護職員初任者研修を開き、職員の受講を奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や連絡会などで、他事業所の職員との意見交換を通じて、自事業所の改善点など気づきを活かしていくようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時から契約に至るまで十分にコミュニケーションを図り、本人の要望等をよく聞き、それらへの対応方法をしっかりと示すことにより、安心頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学時に家族からの要望等を伺い、疑問点があれば解消して頂けるまで話し合い、安心してサービスを利用して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや心身の状況、家族の思いも伺いながら、本人や家族にとってより良いサービスに繋げられるよう助言や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、自立支援が大切であることを念頭に置いて接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のより良い生活の為には家族との協力は必要不可欠であり、意識の共有が図れるようコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等に面会して下さるようお願いをしたり、行事に招待する等、家族も来訪しやすくなるように試みを行っている。	毎日、面会に来られる家族もあるが、家族や馴染みの友人には継続した面会と事業所内の行事の参加を依頼している。家族の協力により墓参り等の馴染みの場所との関係性の維持に努めている。また、事業所便りや携帯電話、メールでの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、利用者主体で楽しく交流が図れるよう、また、トラブルのないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も転居先での様子を覗いたり、困っている事や上手くいかない事があればご相談を頂けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを察し、意向に沿えるように努めている。	日頃の関わりの中で直接に聞いたり、利用者の顔色や表情、生活歴、生活環境等から思い等を把握している。また、難聴の利用者には耳元で話したり、ボードの使用により思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用していたサービス事業所等より生活歴や生活環境等の情報を収集し、ケアに反映出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの毎日の健康状態や精神状態を、記録や申し送りを通じて共有することで気づきに繋げ、対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や随時の話し合いを行い、本人・家族の意向や意見を反映した介護計画になるように努めている。	医師や歯科医師の意見を基に利用者や家族、介護職員、計画作成者等をメンバーとして3か月に1回サービス担当者会議を開催し、関係者の意見を参考に現状に沿った介護計画の作成に努めている。サービス担当者会議に参加できない家族には電話での確認や結果の報告を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や、本人の言葉、職員の気づきなどを記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行援助や入院中の支援、買い物援助などに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々を招き、歌や踊りを楽しんで頂いたり、最寄りの商店への買い物同行や訪問販売の受け入れ等、社会との繋がりを維持するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での医療が受け続けられるように受診援助等を行っている。	利用者や家族が希望する医療機関の受診は原則、家族の同行による受診であるが、緊急時には職員が受診支援を行っている。受診時には利用者の状況のメモを渡し、結果は口頭により相互に受診情報を共有している。協力医療機関の定期的な往診があるが、身寄りのない利用者の受診支援をどうするかを検討中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や通院先の看護師に日々の状態の報告や相談を行い、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護状況を共有できるよう努めている。また、家族や医療機関から情報を得て、入院中の状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応については、かかりつけ医や訪問看護、家族と話し合い、関係者全体で方針を決め、変化していく状況の共有も行うようにしている。	入居時に終末期に向けてのアンケートで家族の意向を記載しているが、随時、利用者や家族の状態変化により関係者と話し合っている。看取りの実績があり、他の利用者に配慮した支援にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って、職員全体に周知している。また、急変時の対応についての内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民や消防署の協力も得て、利用者と共に防災訓練を行っている。	ハザードマップや地元の方からの情報を参考にするとともに、家族や近隣住民の協力を得て、夜間も想定した防災訓練を実施している。ツーバイフォー工法やIHクッキングヒーターの活用により耐震・耐火等のハード面にも対応した事業所である。レトルト食品や水等の備蓄品も確保されている。地域から避難場所の希望があるので検討中である。	大規模災害を想定した地域の協力者の具体的な役割や防災訓練後の課題や問題点の検討を行い、更なる実践に繋がる災害対策を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりの性格に合わせた声かけや対応を行い、自尊心を傷つけることのないように心がけている。	人生の先輩として、利用者の人格を尊重した支援に努めている。難聴の利用者には聞こえる側からゆっくりと話しかけている。排泄の誘導には小声で、部屋のドアの開閉にもプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自主的な発言が頂けるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、無理強いせず、出来るだけ本人のペースや希望に沿った過ごし方をして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみについて、こちらから取り決める事はせず、以前から愛用して来た服装、今まで通りの髪形やおしゃれをすることを支援している。また、希望される方にはマニキュアやお化粧品も援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向に応じて、調理や盛り付け、後片付け等を行って頂いている。また、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく会話をしながら安全に食事が出来ている。	法人内の給食会議で検討した献立と配達された材料を基に、事業所内で素材を活かした調理をしている。ランチョンマットに配膳された食事を職員の声かけや見守り・介助を受けながら食事時間を楽しんでいる。行事食や外食の機会もある。味付けや後片付け、ホットケーキ等のおやつ作りなどは利用者のできることを活かすように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認、記録し把握している。摂取量が少ない方は、ご家族とも相談のうえ、本人の好むものを準備し、栄養が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミング良くトイレ誘導する事心がけ、失禁軽減やおむつ類の使用軽減を図っている。	利用者の排泄状況を把握して、見守りや支援が必要な方には、タイミングをみながらプライバシーにも配慮した排泄の誘導を行っている。トイレの数が多いので気兼ねなく、ゆっくりと排泄できる環境である。おむつからパットに改善された利用者もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事やおやつに食物繊維の多い食材を取り入れたり、散歩や体操等の適度な運動により自然排便できるよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲で時間帯や回数など、利用者一人一人の希望に合わせて入浴して頂けるよう支援している。	個浴とリフト浴があり、入浴回数や時間帯は利用者の状態や希望を尊重した支援に努めている。浴室からは中庭の景色が見られ、また、入浴剤の使用により入浴を楽しめるように工夫をしている。入浴を拒む利用者には時間をずらしたり、声かけの工夫による入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設側の都合を優先する事無く、昼寝の習慣のある方や、体調に応じて、日中も休息が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の追加や変更等について職員が把握できるように細かく申し送りを行っている。また、職員がいつでも確認できるように服薬説明書をファイルに綴じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯、掃除などの家事を無理のない範囲で行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、昔から馴染みのある遊びや利用者が興味を持てる様な楽しみごとを模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等の外遊や外気浴の機会を楽しんで頂いている。初詣や紅葉狩り、地域のお祭りなど季節毎に出かける援助をしている。	広い敷地内を自由に散歩したり、近隣のスーパーマーケット等への買い物、同法人内のバスを利用しての温泉や向日葵、牡丹、紅葉狩り等の季節ごとの外出の機会もあり、自然に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談もしたうえで、少額を所持して頂き、コンビニやスーパーでの買い物を援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で家族へ電話をして頂いている。また、携帯電話を所持し、自由に電話やメールを楽しんでいる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには植物や小物を飾ることで季節感、生活感を出している。対面式のキッチンで調理をする事により、生活感も出て、食欲の増進にも繋り、家事参加へのきっかけにもなっている。	整理整頓された圧迫感のない広いロビーや共用室、廊下は安全面にも配慮されており、また、共用室のソファーや庭園内のベンチはゆったりと過ごせる雰囲気である。玄関横の庭園の滝や中庭、壁面の絵画等は癒しの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングのソファー、庭のベンチ、図書コーナー等、利用者がそれぞれ一人でくつろいだり、仲の良い方と会話を楽しんだりできる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やテレビを置いたり、家族の写真や好みの小物、観葉植物を飾る等、居心地良く過ごせるようにしている。	部屋番号には花等の作品が飾られ、ベッド、洗面台、サイドテーブル、小ダンスが設置されており、利用者はテレビや冷蔵庫、写真や小物等の利用者の馴染みのある物が心地よく配置されている。掃き出し窓からは季節を感じられる庭園や周囲の風景が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がなく安全に過ごせる。また、居室やリビングから段差なくテラスに出られ、広い庭を散歩することができる。毎日の掃除で居室内も危険のないよう環境整備している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で決めた事業所理念を朝礼で唱和することで、理念を念頭においた業務が行えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流会を開いたり、地域の催しへ利用者様と一緒に参加している。また、ご家族の協力もあって、頻繁に外出される利用者もおられる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議等、地域の方が来られた際にホームでの取り組みや日々のケアの中での気づきなどを共有している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事・活動のご報告、事故や災害対策等について話し合いを行い、アドバイスも頂きながらサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に出席して頂いたり、介護保険課の方にも適切な運営のために助言や指導を頂いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。また、内部研修でも身体拘束の弊害等について学んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け、虐待に繋がる事のないようケアへの取り組みを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で倫理規定や人権擁護について理解を共有できるよう努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談時、本人や家族に見学をして頂くと共に、パンフレットや重要事項説明書等を用いて話し合いをし、質疑に応じるようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートの実施などにより意見を出しやすいようにしている。また、面会やお電話等でお話をする機会があればお気づきの点がないか伺うようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティング時に職員全体の意見を聞き、サービスの質の向上のためには取り入れている。また、法人からは定期的に視察にくる事により現状の把握、職員からの意見を共有、反映できるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や実績の把握に努め、賞与や昇進等に反映させている。また、法人からの視察時に現状把握や相談などが行われている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また、法人で介護職員初任者研修を開き、職員の受講を奨励している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や連絡会などで、他事業所の職員との意見交換を通じて、自事業所の改善点など気づきを活かしていくようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時に十分にコミュニケーションを図り、本人の要望等をよく聞き、それらへの対応方法等をしっかりと示すことにより、安心頂けるよう努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学時に家族からの要望等を伺い、安心してサービスを利用して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや心身の状況、家族の思いも伺いながら、本人や家族にとってより良いサービスに繋げられるよう助言や紹介を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、自立支援が大切であることを念頭に置いて接している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のより良い生活の為には家族との協力は必要不可欠であり、意識の共有が図れるようコミュニケーションを取っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等に面会して下さるようお願いをしたり、行事に招待する等、家族も来訪しやすくなるように試みを行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、利用者主体で楽しく交流が図れるよう、また、トラブルのないよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も転居先での様子を覗いたり、困っている事や上手くいかない事があればご相談を頂けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを察し、意向に沿えるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用していたサービス事業所等より生活歴や生活環境等の情報を収集し、ケアに反映出来るようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの毎日の健康状態や精神状態を、記録や申し送りを通じて共有することで気付きに繋げ、対応できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や随時の話し合いを行い、本人・家族の意向や意見を反映した介護計画になるように努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や、本人の言葉、職員の気づきなどを記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行援助や入院中の支援、買い物援助などに取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々を招き、歌や踊りを楽しんで頂いたり、最寄りの商店への買い物同行や訪問販売の受け入れ等、社会との繋がりを維持するよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での医療が受け続けられるように受診援助等を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院援助や往診時の看護師に日々の状態の報告や相談を行い、アドバイスを受けている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護状況を共有できるよう努めている。また、家族や医療機関から情報を得て、入院中の状況把握に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応については、かかりつけ医や訪問看護、家族と話し合い、関係者全体で方針を決め、変化していく状況の共有も行うようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って、職員全体に周知している。また、急変時の対応についての内部研修を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民や消防署の協力も得て、利用者と共に防災訓練を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりの性格に合わせた声かけや対応を行い、自尊心を傷つけることのないように心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自主的な発言が頂けるように接している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、無理強いせず、出来るだけご本人のペースや希望に沿った過ごし方をして頂けるようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみについて、こちらから取り決める事はせず、以前から愛用して来た服装、今まで通りの髪形やおしゃれをすることを支援している。また、希望される方にはマニキュアやお化粧品も援助している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向に応じて、調理や盛り付け、後片付け等を行って頂いている。また、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく会話をしながら安全に食事が出来ている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認、記録し把握している。摂取量が少ない方は、ご家族とも相談のうえ、本人の好むものを準備し、栄養が確保できるように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミング良くトイレ誘導する事心がけ、失禁軽減やおむつ類の使用軽減を図っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事やおやつに食物繊維の多い食材を取り入れたり、散歩や体操等の適度な運動により自然排便できるよう援助している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で時間帯や回数など、利用者一人一人の希望に合わせて入浴して頂けるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設側の都合を優先する事無く、昼寝の習慣のある方や、体調に応じて、日中も休息が出来るように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の追加や変更等について職員が把握できるように細かく申し送りを行っている。また、職員がいつでも確認できるように服薬説明書をファイルに綴じている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯、掃除などの家事を無理のない範囲で行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。職員と共同での作品作りも楽しんで頂いている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等の外遊や外気浴の機会を楽しんで頂いている。初詣や紅葉狩り、地域のお祭りなど季節毎に出かける援助をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談もしたうえで、少額を所持して頂き、コンビニやスーパーでの買い物を援助している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で家族へ電話をして頂いている。また、携帯電話を所持し、自由に電話をされている方もおられる。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには植物や小物を飾ることで季節感、生活感を出している。対面式のキッチンで調理をする事により、生活感も出て、食欲の増進にも繋がり、家事参加へのきっかけにもなっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングのソファ、庭のベンチ、図書コーナー等、利用者がそれぞれ一人でくつろいだり、仲の良い方と会話を楽しんだりできる場所がある。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やテレビを置いたり、家族の写真や好みの小物、観葉植物を飾ったり、水槽で金魚を育てている方もおられ、居心地良く過ごされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がなく安全に過ごせる。また、居室やリビングから段差なくテラスに出られ、広い庭を散歩することができる。毎日の掃除で居室内も危険のないよう環境整備している。